

地域内フィーダー系統確保維持事業

一次評価資料

令和 7 年 1 月

飯能市地域公共交通対策協議会

令和6年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月30日

協議会名: 飯能市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西武ハイヤー株式会社	飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(精明・加治地区) 系統:3系統(精明東系統・精明西系統・加治系統) 運行日:月・水・金 運賃:一律200円 車両:10人乗りワゴン(定員9人)	・道路の開通に伴い、令和7年4月1日からより利便性の高い経路へ変更する。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	C 目標① 1便当たり平均利用者数(全系統合計) 目標値 5人以上 実績値 4.00人【未達】 目標② 収支率(経常経費に対する経常収入の割合) 目標値 20%以上 実績値 13.42%【未達】 ▶利便性向上による利用者の増加、運行収入以外の収入源の確保を目指す。	・運行収入以外の収入源確保 ・キャッシュレス決済の導入
国際興業株式会社	飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(原市場地区) 系統:3系統(①飯能駅系統・②原市場地区行政センター系統・③新寺系統) 運行日: ①③毎日、②月・水・金 運賃: ①対キロ運賃、②一律300円、 ③一律100円 車両: ①大型バス、②③14人乗りワゴン(定員12人)	・GTFSデータを作成し、GoogleMapsにおける経路検索に対応した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標 1便当たりの利用者数 目標値 1.5人以上(往復3人以上) 実績値 3.41人【達成】	・運行収入以外の収入源確保
	飯能市乗合ワゴン「おでかけむーま号」(南高麗地区) 系統:2系統(①小学校系統・②南高麗地区行政センター系統) 運行日:①月～金、②月・水・金 運賃:一律300円 車両:14人乗りワゴン(定員12人)	・GTFSデータを作成し、GoogleMapsにおける経路検索に対応した。	A 事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。	A 目標 1便当たりの利用者数 目標値 1.5人以上(往復3人以上) 実績値 2.74人【達成】	・運行収入以外の収入源確保

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和7年1月30日

協議会名：	飯能市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名：	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>【基本方針】 暮らしを支える地域公共交通の実現を目指して ～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～</p> <p>【地域内フィーダー系統の維持確保の必要性】</p> <p>①精明、加治地区 市内の公共交通が不十分である精明地区及び加治地区において令和3年3月10日から「飯能市乗合ワゴン」の実証運行を開始しました。当ワゴンについては、市内拠点のひとつである東飯能駅と各地区を結ぶ移動手段として、その運行内容について地域住民と共に検討し、導入に至ったものです。主に、運転免許を持たない高齢者等が買い物、通院等の日常の移動手段として便利に利用されており、今後も当該地区の主要な移動手段として維持・確保していく必要があります。 このため、地域公共交通確保維持事業により、飯能市乗合ワゴンの各路線(精明西・精明東・加治系統)を確保維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要です。</p> <p>②原市場(中藤・中沢)地区、南高麗地区 原市場(中藤・中沢)地区、南高麗地区にはそれぞれ国際興業バス中藤・中沢線、間野黒指線が運行していましたが、人口減少により利用者が極めて少ない状況であったことから、地域旅客運送サービス継続事業を活用して再編を実施しました。運行内容については地域住民と検討し、令和4年9月1日から新しい形態での実証運行を開始し、令和5年9月1日から本格運行に移行しました。当該地区は山間地域であり、各地域拠点までの移動手段として、今後も沿線住民の通勤・通学や高齢者等の買い物、通院等の日常的な移動を叶えていく必要があります。 このため、実証運行の結果等から利用ニーズを把握し、課題について検証した上で、地域公共交通確保維持事業(運行経費、車両購入費)を活用し、各路線を維持・確保していきます。</p>

令和6年度 飯能市地域公共交通対策協議会（埼玉県飯能市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題

バス路線は、飯能駅を起点として放射状に形成され、3社37系統（共同運行2系統含む）が運行している。市内の一部地域では公共交通空白地の解消やバス路線の再編のため、地域、事業者と連携してコミュニティバスの運行を開始した（2社13系統）。また、令和3年、令和5年には美杉台地区など中心市街地において、遠隔監視システムを活用した自動運転大型バスによる実証実験を実施した。その他の移動手段については、バス路線のない地域においてNPO法人による自家用有償旅客運送の導入により移動手段が確保されている。また、施設送迎車を活用した移送サービスの導入など地域資源を活用した移動手段の確保も進んでおり、公共交通を補完する移動手段として地域で重要な役割を担っている。



交通計画の基本的な方針／定性的な目標

基本方針 暮らしを支える地域公共交通の実現を目指して

～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1: みんなでまもり、育てる公共交通 目標指標: 実車走行距離あたり利用者数(市内全路線)
～利用促進・意識啓発・担い手支援～ 実車走行距離あたり利用者数(地域幹線)

基本目標2: みんなが使いやすい公共交通 目標指標: 将来(10年後)の外出に不安を感じる人の割合
～運行環境整備・利便性向上～ 路線バスを1年間1回以上利用した割合

基本目標3: みんなでつくる公共交通 目標指標: 飯能市乗合ワゴン(精明地区・加治地区)の収支率
～地域公共交通網のリ・デザイン～ 公共交通利便地域の人口割合

面積	193.05 km ²
人口 (R6.4.1時点)	78,278 人
15歳未満	8,147人
65歳以上	25,489人
高齢化率	32.6 %

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

○飯能市乗合ワゴン(原市場・南高麗)の運行内容変更(R6.10.1～)

市内原市場(中藤・中沢)地区、南高麗地区を運行する飯能市乗合ワゴンについて、より効率的に運行できる体制の構築のため運行時刻等を変更した。

○飯能市乗合ワゴン「アルプス美杉台店」停留所の整備

利用者から整備の要望が多かった「アルプス美杉台店」上り、下り停留所の舗装工事を実施した。



△工事前



△工事後

アピールポイント

○国際興業バスまつりの開催(R6.2.25)

国際興業と共催でワゴン車両の展示、バスに関するイベントを実施した。
(参加者数: 1,563 人)

○社会福祉法人名栗園送迎車を活用した住民移送事業を開始(R6.6～)

社会福祉法人名栗園が、社会貢献として施設の送迎車を活用して精明東地区から精明公民館(精明西便に接続)まで週1回、1日1往復運行している。



△国際興業バスまつりの様子



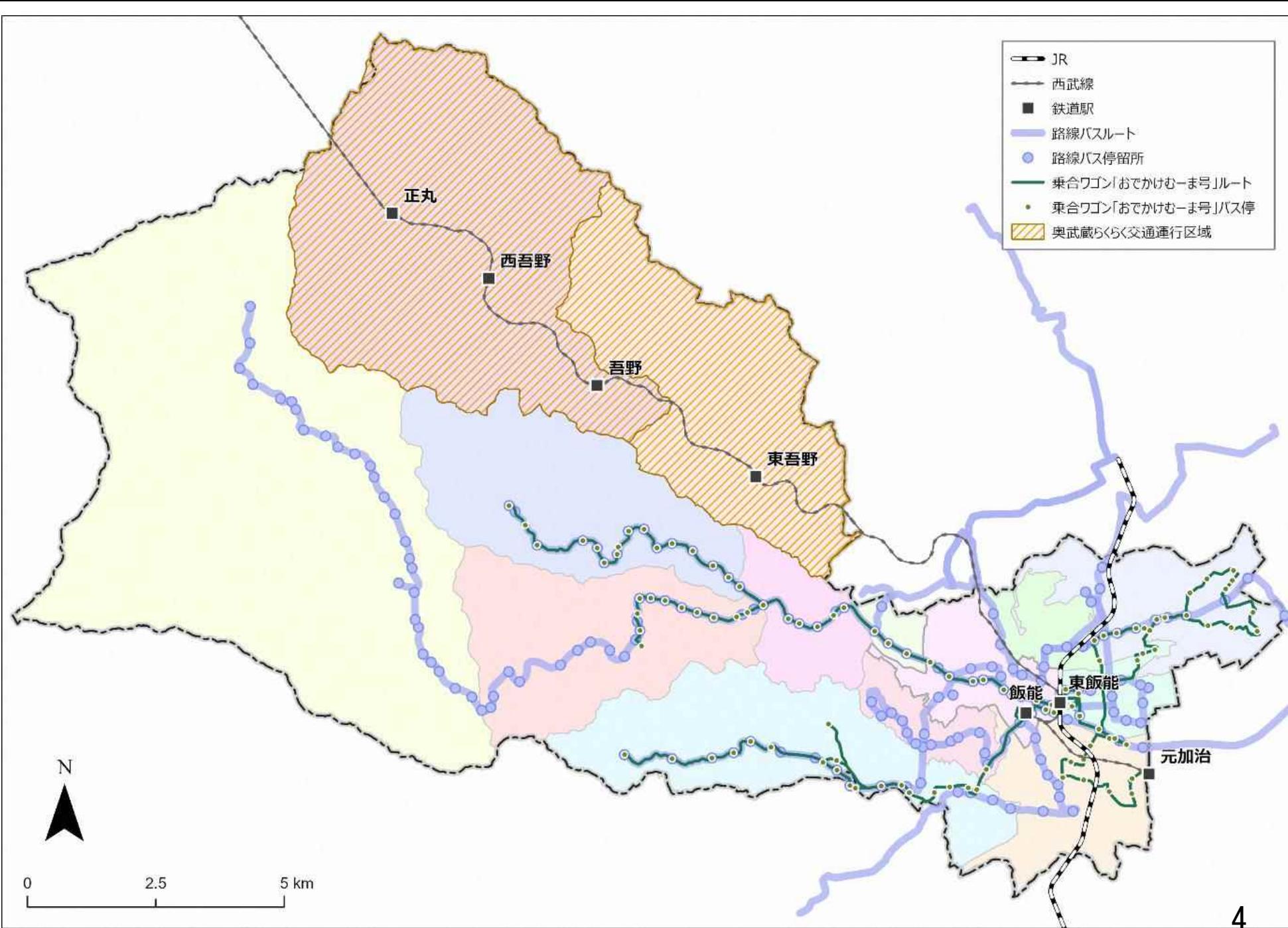
△社会福祉法人名栗園送迎車を活用した住民移送事業

交通計画の計画期間

令和5年4月～令和10年3月

協議会開催状況

- ・第25回(令和5年11月6日)
飯能市乗合ワゴン(原市場・南高麗)の実証運行結果及び今後のスケジュールについて ほか
- ・第26回(令和6年1月書面開催)
地域内フィーダー系統確保維持事業に係る一次評価について ほか
- ・第27回(令和6年3月書面開催)
令和5年度分地域公共交通計画別紙の変更について
- ・第28回(令和6年3月29日)
飯能市地域旅客運送サービス継続実施計画の変更案について ほか
- ・第29回(令和6年6月24日) **3**
令和5年度事業報告及び令和6年度事業計画について ほか



飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）運行実績 令和6事業年度



1 運行実績概要

- (1) 運行期間 令和5年10月1日～令和6年9月30日
- (2) 運行日数 140日（月・水・金運行 ※祝日、12/29～1/3は運休）
- (3) 運行回数 1,120便（精明東280便、精明西280便、加治560便）

2 利用実績

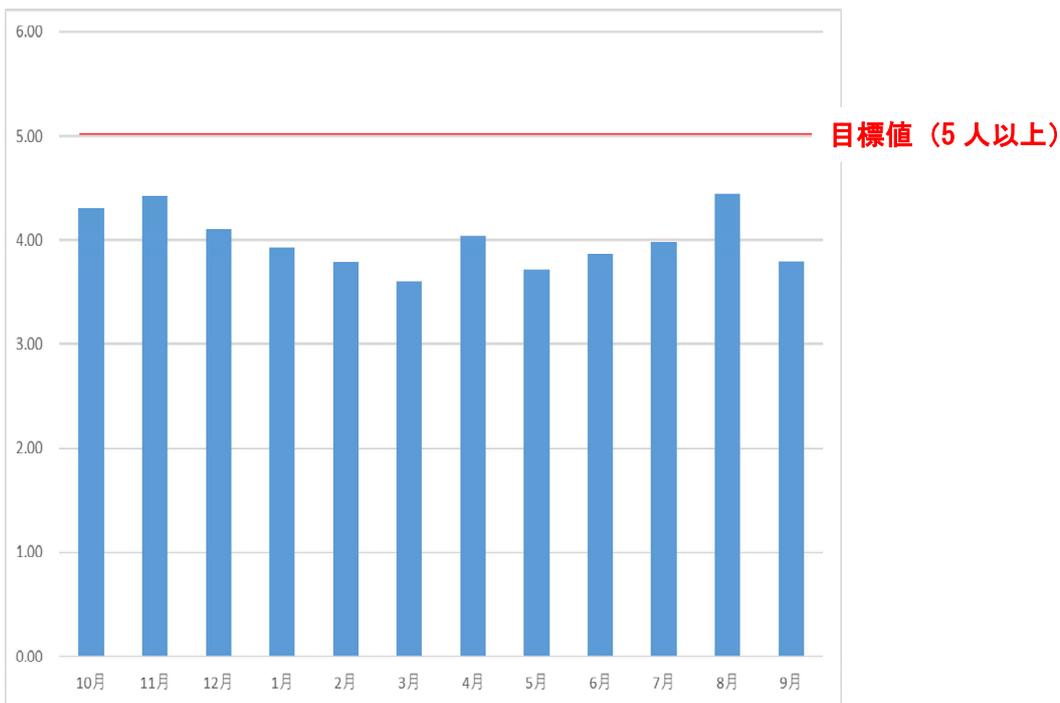
(1) 系統別

指標	精明東	精明西	加治	合計
1 実車走行キロ (km)	5,152	3,136	9,072	17,360
2 運行回数 (便)	280	280	560	1,120
3 輸送人員 (人)	1,430	1,021	2,031	4,482
4 1便あたりの利用者数 (人/便)	5.11	3.65	3.63	4.00

(2) 便別

便目 系統	1	2	3	4	5	6	7	8
	加治	精明東	加治	精明西	加治	精明東	加治	精明西
1 運行回数 (便)	140	140	140	140	140	140	140	140
2 輸送人員 (人)	227	1,026	848	760	614	404	342	261
3 1便あたりの利用者数 (人/便)	1.62	7.33	6.06	5.43	4.39	2.89	2.44	1.86

(3) 月別の1便あたりの利用者数 (人/便)



3 収支実績

(1) 運行経費、運行収入、欠損額

①運行経費		5,654,845 円
②運行収入		758,727 円
③欠損額		4,896,118 円
欠損額負担内訳	(市)	2,449,118 円
	(国庫申請額)	2,447,000 円

(2) 収支率：13.42% (目標値 20%以上)

(3) 国庫補助金の申請状況

地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・令和6年度事業 (R5.10.1~R6.9.30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・令和7年度事業 (R6.10.1~R7.9.30) 計画認定済み

4 その他の取組

(1) 道路開通による、より利便性の高い経路への変更

道路の開通に伴い、令和7年4月1日から経路を変更する。以前から市民の要望が多かった停留所を新設する。

(2) 飯能市公共交通マップ等による情報発信

市内の路線バス等を迷わず利用できるよう作成する「飯能市公共交通マップ」内に飯能市乗合ワゴンの路線、乗り方等を掲載し、利用周知を図った。また、運行概要、時刻表等を掲載したパンフレットを配布した。



△パンフレット

(3) 沿線施設における運行周知 (通年)

路線の周知を図るため、沿線のスーパー、医療機関等計18か所にワゴンの停留所位置の案内を掲示した。



5 今後の課題

(1) 運行収入以外の収入源の確保策の検討

(2) 交通系 IC カード等によるキャッシュレス決済の導入



経路図(原市場)



■フリー乗降区間

中沢 ～ 新寺

※以下の区間、場所は適用外です。

- ・飯能駅系統全線
- ・新寺 ～ 原市場地区行政センター間
- ・法定の駐停車禁止場所
- ・その他、他の車両の通行を妨げるような狭あいな場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

飯能市乗合ワゴン（原市場地区）運行実績 令和6事業年度



1 運行実績概要

(1) 運行期間 令和5年10月1日～令和6年9月30日

(2) 運行日数 ・飯能駅系統、新寺系統 365日（毎日運行）
・原市場地区行政センター系統 140日（月水金運行）

※旧盆期間、12/30～1/3（元日は除く）は土休日ダイヤで運行、元日は運休

※飯04は旧盆期間、12/30は土休日ダイヤで運行、12/31～1/3（元日は除く）は特別ダイヤで運行、元日は運休

(3) 運行回数 2,421回

・飯能駅系統 666回（片道1,332便）
・原市場地区行政センター系統 420回（片道840便）
・新寺系統 1,335回（片道2,670便）

2 利用実績

(1) 系統別

指標	飯能駅系統	原市場地区行政センター系統	新寺系統	合計
1 実車走行キロ (km)	20,128.8	9,164.4	19,473.8	48,767.0
2 運行回数 (回)	666	420	1,335	2,421
3 輸送人員 (人)	9,398	2,800	4,300	16,498
4 1便当たりの利用者数 (人/便)	7.06	3.33	1.61	3.41

目標値 1.50

(2) 便別・1便当たりの利用者数

便目	系統	平日		土休日	
		発時刻	1便当たり利用者数	発時刻	1便当たり利用者数
上り	1 飯能駅系統	6:20	※ 12.61	7:00	※ 6.90
	2 飯能駅系統	7:00		9:00	
	3 原市場地区行政センター系統	8:58	5.97		
	4 原市場地区行政センター系統	9:54	2.72		
	5 原市場地区行政センター系統	10:56	3.65		
	6 新寺系統	18:10	1.45	17:06	1.81
	7 新寺系統	18:57	0.05	17:56	0.58
	8 新寺系統	19:46	0.01	18:43	0.18
	9 新寺系統	20:25	0.13		

	便目	系統	平日		土休日			
			発時刻	1便あたり利用者数	発時刻	1便あたり利用者数		
下り	1	飯能駅系統	6:24	※ 2.14	8:22	6.62		
	2	飯能駅系統	7:12					
	3	原市場地区行政センター系統	9:25	0.54				
	4	原市場地区行政センター系統	10:22	0.91				
	5	原市場地区行政センター系統	11:40	6.21				
	6	新寺系統	17:38	3.86			17:37	2.14
	7	新寺系統	18:38	3.67			18:17	0.66
	8	新寺系統	19:18	3.40			19:15	2.04
	9	新寺系統	20:08	1.50				

3 国庫補助金の申請状況

(1) 地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・ 令和6年度事業 (R5.10.1~R6.9.30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・ 令和7年度事業 (R6.10.1~R7.9.30) 計画認定済み

(2) 地域旅客運送サービス継続実施計画 計画認定済み

- ・ 対象 飯能駅系統、原市場地区行政センター系統、新寺系統
- ・ 期間 令和5年9月1日~令和9年3月31日

4 その他の取組

(1) GTFS データリポジトリヘデータの登録

各系統の GTFS データを作成し、GoogleMaps における経路検索に対応した。

(2) 利用者の少ない区間の運行改善と利用者数の確保

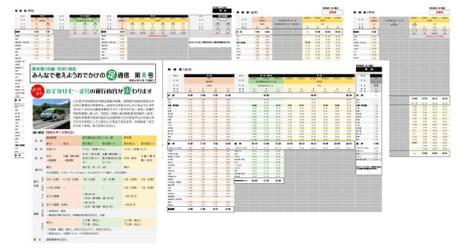
利用状況や乗込調査の結果、利用者や地域の方からの意見を踏まえ、令和6年10月1日からの運行内容を見直した。

(3) 「みんなで考えようおでかけの足通信」の発行による地域への情報発信 (R6.9.1~)

運行内容の変更点について、地域住民向けの通信を沿線全戸に配付し、周知した。

5 今後の課題

- (1) 運行収入以外の収入源の確保策の検討
- (2) 利用者数の確保
- (3) 運行環境の整備 (乗換環境、待合環境など)



経路図（南高麗）

- : 小学校便
- : 南高麗地区行政センター便
- : 苅生便 (補助対象外)
- ● : 停留所



■フリー乗降制度

間野黒指・苅生自治会館 ~ みどり橋

※以下の区間、場所は適用外です。

- ・東飯能駅(駅前広場)～みどり橋(※フリー降車のみできます)
- ・法定の駐停車禁止場所
- ・その他、他の車両の通行を妨げるような狭い場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

飯能市乗合ワゴン（南高麗地区）運行実績 令和6事業年度



1 運行実績概要

- (1) 運行期間 令和5年10月1日～令和6年9月30日
- (2) 運行日数
 - ・小学校系統 244日（月～金運行）
 - ・南高麗地区行政センター系統 142日（月水金運行）
 ※土休日、1/1～1/3は運休
- (3) 運行回数 1,138回
 - ・小学校系統 854回（片道1,708便）
 - ・南高麗地区行政センター系統 284回（片道568便）

2 利用実績

(1) 系統別

指標	小学校系統	南高麗地区行政センター系統	合計
1 実車走行キロ (km)	18,640.2	6,188.0	24,828.2
2 運行回数 (回)	854	284	1,138
3 輸送人員 (人)	5,096	1,131	6,227
4 1便当たりの利用者数 (人/便)	2.98	1.99	2.74

目標値 1.50

(2) 便別・1便当たりの利用者数

便目	系統	発時刻	1便当たりの利用者数
上り	1 小学校系統	7:40	5.14
	2 小学校系統	8:50	3.95
	3 苅生系統	9:58	3.52 (補助対象外)
	4 南高麗地区行政センター系統	11:28	1.82
	5 南高麗地区行政センター系統	12:39	1.40
	6 苅生系統	13:47	2.26 (補助対象外)
	7 小学校系統	15:10	2.22
	8 小学校系統	16:23	1.65

	便目	系統	発時刻	1 便当たりの利用者数
下り	1	小学校便	8:15	3.00
	2	苺生便	9:27	1.58 (補助対象外)
	3	南高麗地区行政センター便	10:54	0.54
	4	南高麗地区行政センター便	12:05	3.17
	5	苺生便	13:16	2.35 (補助対象外)
	6	小学校便	14:35	2.81
	7	小学校便	15:48	2.10

3 国庫補助金の申請状況

(1) 地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・ 令和6年度事業 (R5.10.1~R6.9.30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・ 令和7年度事業 (R6.10.1~R7.9.30) 計画認定済み

(2) 地域旅客運送サービス継続実施計画 計画認定済み

- ・ 対象 小学校系統、南高麗地区行政センター系統
- ・ 期間 令和5年9月1日~令和9年3月31日

4 その他の取組

(1) GTFS データリポジトリヘデータの登録

各系統の GTFS データを作成し、GoogleMaps における経路検索に対応した。

(2) 利用者の少ない区間の運行改善と利用者数の確保

利用状況や乗込調査の結果、利用者や地域の方からの意見を踏まえ、令和6年10月1日からの運行内容を見直した。

(3) 「みんなで考えようおでかけの足通信」の発行による地域への情報発信 (R6.9.1~)

運行内容の変更点について、地域住民向けの通信を沿線全戸に配付し、周知した。

5 今後の課題

- (1) 運行収入以外の収入源の確保策の検討
- (2) 利用者数の確保
- (3) 運行環境の整備 (乗換環境、待合環境など)

